

松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第1回）開催概要

日 時	平成27年8月21日（金）	15:00～16:30
場 所	松戸市役所 新館5階	市民サロン
出席者 （敬称略）	影山貴大、角畑博文、高橋正剛、高山健太郎、平岩光現、 眞壁哲夫、吉原康夫	（欠席：秋田典子）
事務局	松戸市総合政策部まつど創生課	

次第1 「開会」

次第2 「市長あいさつ」

- ・国の「地方創生」の施策のもとで、今年度各自治体に「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定が実質的に義務付けられた。松戸市としても全力をあげて、この策定に取り組んでいく。
- ・松戸市も大幅な人口減少社会に入るが、現在40歳代が最も多い。今後10年間は活力を維持していけるとは思うが、その世代が60歳を超えていくような社会になったときに支え手となる若い世代、特に20歳以下が年々減少している。最近では出生数も4千人を切ってきた。このまま手を打たないと、人口は2060年には32万人まで減少し、まちの活気は失われていく。
- ・松戸は東京の近くにありながら、東京と違う環境を備えており、良いところもたくさんあることを考えると、まだまだ潜在能力は十分にあると思う。松戸が元気であり続ける計画をつくることは可能だし、それをつくっていかなくてはならない。
- ・松戸市の直近の合計特殊出生率は1.36だが、これを国が言っている2.07まで引き上げ、更に相当な人口流入を見込むことを前提にすると、やっと現状の人口を維持することができる。出生率の上昇や転入数の増加は大変なことだが、ぜひやり遂げたい。
- ・その実現に向けて、以下の4つの方向性を考えている。
- ・1つ目は「将来を担う子どもたちが元気に育っていただく環境を整えること」。
出産・子育てに関する環境整備を進めていきたい。子育て対策にかける支出は「費用」ではなく「投資」だと認識している。
- ・2つ目は「高齢者が元気なまちにしていくこと」。
2025年問題と言われている団塊世代が75歳を超える10年後には、このままでいくと松戸市でも2割近く、5人に1人が75歳以上になる。高齢者に元気で長生きしてもらうまちにしていくことは重要な課題である。

- ・3つ目は「もう一度、魅力あるまちにつくり直していくこと」。
まちも古くなってきたこともあって、松戸駅周辺をはじめ、さまざまなプロジェクトを検討している。それらを推し進めて、将来、若い人たちが元気が出るようなまちにしていきたい。
- ・4つ目は「安心して働けるまちにしていくこと」。
課題は、雇用が少ないということ。人口が48万人を超えているが、昼間人口は40万人を割り込み、夜間人口の82%となっている。2割近くが昼間にいないということは、それだけ活力が減退しており、昼間人口を増やしていくという観点が必要。
雇用の確保のためには、第3次産業、商業や観光などの基礎を松戸市でもつくっていく必要がある。
- ・このようにバランスのとれたまちづくりを進めていかないと松戸市は元気にならないと思っている。3世代が一緒に住めるようなまちづくり、コンパクトシティの取り組みなど、様々な政策を従来と違った発想でやっていかないと課題は解決できない。委員の皆様からも忌憚のない意見、アイデアを出していただいて、将来の松戸の子どもたちにとっても高齢者にとってもすばらしい総合戦略になるようにご尽力いただきたい。

次第3 「出席者自己紹介」

(影山氏)

- ・若者中心のボランティア団体や地域リーダー養成塾などで、地域づくり活動に関わっている。
- ・これからの時代は、私たちのような20歳代の若者が自ら動いて課題を切り開いていくことが求められている。そうした活動は1つの組織では対応しきれず、複数の分野間のコーディネーターが必要になると考えている。そのような役割を果たそうと活動している。
- ・松戸市は課題も多いが、転ずれば可能性もあるまちだと考えている。

(角畑氏)

- ・6月末に千葉銀行松戸支店長に着任した。
- ・東京に近い分、チャンスはあるが、また難しいまちだと感じている。
- ・人口減少社会にある中で、地方が元気になって、内需を高めて、日本全体を底上げしていく必要がある。人口ビジョン、総合戦略づくりに全国的に取り組んでいる意義は大きい。

(高橋氏)

- ・松戸市の人口ビジョン、総合戦略づくりの担当部長として参加している。
- ・国からさまざまなデータが提供され、経験を頼りに判断していたことが、より明確にわかるようになってきている。
- ・今回さまざまな分野の方から意見を聴く機会を設けたが、今後国を挙げて人口減少に対応していくには、こういった色々な分野の皆さんと一緒にやっていくことが大切に

なってくるので、今後ご協力をお願いしたい。

(高山氏)

- ・ 連合千葉東葛地域協議会の松戸鎌ヶ谷地区連で代表をしており、松飛台のマブチモーター労組の委員長をしている。
- ・ 連合千葉としては、働くことを軸とする安心社会を目指しており、子育てに関しては、社会全体で支えることを訴えている。安心して仕事と家庭の両立ができる社会づくりなどを訴えてきた。少子化に関しては、女性が仕事と子育てのどちらかを選ぶのではなくいかに両立させるのかというのを課題として掲げている。

(平岩氏)

- ・ 4月よりジェイコム東葛葛飾に着任した。これまで柏・湘南・小金井で勤務してきた。
- ・ 「活気があるまち」とは、地域の人たちが「このまちいいな」と感じている人の多いまち。そう思うには、自らのまちを知っていなければならないが、よく知らない人が意外と多い。市の取組みや力を入れていることを知ってもらえるよう、まずは現在お住まいのかたへの積極的な情報発信が重要ではないか。松戸の良さが広く伝われば、中長期的には人口流入にもつながる。ケーブルテレビはそういった役割が担えると思う。

(眞壁氏)

- ・ 長銀で30年勤務した経験があり、現在は聖徳大学で教授をしている。
- ・ 5つの自治体と13の大学が参加する「大学コンソーシアム東葛」では学生に地域創生のアイデアを出させるワークショップなどを手伝ってきた。
- ・ 現在大学でも地域創生のプランニングをさせるような科目も設けている。
- ・ どの自治体も人口減少対策を行うなかでは、「松戸らしい個性」の組み立てが重要。骨子案で歴史・文化を重視している点は賛成。そういった軸を置きながら立体構造をつくっていければ他の自治体と違う戦略になるのでは。

(吉原氏)

- ・ 松戸商工会議所の理事、事務局長をしている。会議所としては、観光振興や地域資源の掘り起こし等ソフト面、農協と連携した6次産業化、創業支援、起業家育成などで地方創生に貢献していきたい。また事業承継のための経営革新など行政などとも連携しながら進めたい。
- ・ 松戸には聖徳大学という保育の教育で日本一の大学がある。このブランドを若い世代にアピールすることが少子化対策の早道なのでは。

次第4 「懇談会テーマ」

～「松戸市人口ビジョン」「松戸市総合戦略」の骨子案（たたき台）について

事務局より資料の内容を説明。以下、それを受けての議論。

（吉原氏）

- ・松戸商工会議所として、松戸の企業の活性化を推進するために創業・起業家を育てること、後継者への事業承継に力を入れている。
- ・地域の企業が活性化するとまちが活性化する。人口が減少すると、全てが悪い方に回転してしまう。
- ・商工会議所としては、事業所を増やすことに力を入れている。昨年会議所に加入した380件のうち80件がこれから事業をはじめようというもの。廃業もあるが、松戸はそれだけ創業のある「力があるまち」といえるのでは。仕掛けがあれば、創業は今以上に増えていくと考えている。

（眞壁氏）

- ・総合戦略の立体構造として、まず一つの軸を決めてそこから枝葉となるような仕組みをつけていけば良いと考えている。どの自治体も同じような総合戦略になりかねないなかで、松戸市独自の軸をつくるのが他と差別化するために必要だ。
- ・松戸には戸定が丘歴史公園など、歴史資産が数多くあり、こうした素晴らしい資産をうまく活用していったらどうか。例えばSNSを活用し海外に発信するコンテンツをつくり旅行客を誘致する、当時の食事やファッションなど昔の文化を体験できる場をつくる、など。こうした取り組みが雇用創出につながる可能性もある。

（平岩氏）

- ・提示されているたたき台は、全体がきちんと網羅されている。
- ・逆に、総合戦略には核をおいて、他との差別化を図り、「松戸の売り・強み」をもう少し明確に打ち出していくことが必要だとも考える。東京に近いという立地・利便性は松戸市の大きな強みである。これにどう肉付けしていくかが課題である。
- ・戦略の中に「安心・安全」というキーワードがなかったことが気になった。
- ・人口流出を防ぐ観点で、市内外へのPRについても盛り込んでいくべき。

（高山氏）

- ・たたき台は良くできていると思う。
- ・連合としても、特に子育てや教育の面に関心が高い。女性の社会進出や子育てと仕事の両立といった点については、労使関係で築いていくところもあるので、市とも意見交換をしながら一緒に考えていきたい。
- ・勤務先は松飛台工業団地内に立地しているが、近年周辺事業者が木更津や茨城のほうなどに移転し空き地が目立ってきており、寂しく感じている。物流の問題が大きいと聞いています。松戸は羽田空港と成田空港のほぼ中間に立地し、グローバル企業にとっても良いロケーションにあると考えている。道路については、印西や白井、鎌ヶ谷のほうまでは北千葉道路が来ていて、あちらの先には物流関係がどんどん出来ている。

松戸がちょっと出遅れている感はある。産業に関してはその辺をどうフォローしていくか。

- ・自分自身が、育児もし、また親の介護を考える年齢になり、三世代の家を考えてもいるが、お金と土地の問題でなかなか難しい。その一方で周りには空き家が多くみられる。空き家を活用した住宅施策を検討していくべきと考えている。

(角畑氏)

- ・人口ビジョンでは 2060 年に 50 万人程度を維持するとあるが、日本全体で出生が落ちていて、社会増で相当引っぱってこないで 50 万人というのは相当難しい。松戸の魅力を発揮して頑張れば達成できるのかもしれないが、他の市区町村も総合戦略で頑張っている中で、松戸だけが一人勝ちするのが可能なのだろうか。
- ・ただ、そのくらいの意識を持っていないと他の自治体から引き抜かれてしまうとも思うので、これを目標に掲げることには意味があるが、自分たちを苦しめないか心配。
- ・総合戦略については、バランス良く 4 つの基本目標を掲げており、どれ一つ欠いてもうまくいかないと思う。
- ・子どもを生み育てるには、将来自分たちが高齢になったとき、ちゃんとケアしてもらえるのかと。それができないのであれば、それなりの数の子どもは持てないとの考えにつながる。
- ・総花的なので、それぞれの目標について松戸ならではの核を設定し、PR していくことによって、松戸に人を集めることが出来るのではないか。

(影山氏)

- ・人口ビジョンに掲げた目標達成には、短期的には社会増が求められるが、自治体同士が人を奪い合い敵対するのではなく、広域連携して地域内での人口維持を目指していく考えも必要。
- ・総合戦略の項目は、どれも必要なことではあるが、これまでも必要であったこと。わかっている成果をあげることが難しい分野なのだろう。実現させるためには、実際に動くプレイヤーとの連携、協働の意識がより求められていく。
- ・「松戸らしさ」を語る上で、松戸のことをよく知らなければならない。私も松戸生まれ・松戸育ちだが、松戸を詳しく知ったのはここ数年のこと。都内に出て行く若者は松戸に寝に帰ってくるだけで、松戸で何が起きているか知らないはず。
- ・確かに戸定邸も有名だが、あまり知られていないが東松戸には、茅葺屋根の旧齋藤邸といった日本の原風景が残っている場所がある。外国人旅行者はクールジャパンのような文化だけでなく、もともと日本にあった茅葺屋根の家を見たいとか、そういったニッチなニーズも増えてきている。せっかく武器になる資源があっても、知らないために活用できていないのは勿体ない。
- ・23 号駅があって利便性は良いのだが、各々のまちが分断され横の連携が足りないようにも感じる。逆に、例えば「常盤平は高齢者に優しいまち」、「新松戸は子育てに優しいまち」というように、地区ごとの政策に特色を出しても面白いのではないか。

(高橋氏)

- ・皆さんのご意見を伺っていると、総合戦略については「総花的、核がない」という意見が多かったと思う。
- ・日本全体として、若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境を整備していった結果、子どもの数が増えていく、ということをもとにやらなくてはならない。
- ・その上で、松戸市として自立して行政運営をやっていくという視点で考えると、子育て世帯、高齢者、若者など市民から選ばれるまちを目指していく必要がある。そうした施策を打っていくことで、結果として転入が増える、ということで総合戦略にはさまざまな取り組みが書き込んである。
- ・情報発信の話が出たが、以前に市が行ったアンケートでは、転入先を選ぶ際に「その市が行っている施策」をほとんど見ていない。「イメージ」や「住宅の価格」とか「都内への交通アクセス」を重視している結果が出た。市のイメージアップ、情報発信が重要だということで、松戸市でもシティプロモーションに力を入れている。
- ・「文化」を大切にすることも松戸のイメージアップにつながるテーマと認識している。

.....

(事務局)

- ・これまでの皆さんからの意見を踏まえて、更に意見・感想をうかがいたい。

(影山氏)

- ・総合戦略の軸という話が出た。松戸市にはありとあらゆる地域課題が詰まっており、「問題のサラダボール」ともいえる。しかし一方でこうした混在した状況を強みにできるのではないかと考えている。ただ、どのように形にしていくのか、何を軸とするかについて具体的な案はまとまっていない。

(吉原氏)

- ・人口 50 万人の維持は簡単ではない。流山市では、子育てに特化したまちづくりを何年も前から取り組み、転入者数が県内一となったと聞いている。松戸市では、交通網の利便性、聖徳大学のブランドなどを活かし、いろいろな施策を講じていくべきだと考える。

.....

(事務局)

- ・他のまちと比較して松戸市をどのように感じているか。言いづらいことも含め。

(平岩氏)

- ・これまで勤務してきたまちと比べると、松戸は「ちょっと元気がないかな」というのが最初の正直な感想。
- ・まちのイメージの話があったが、番組づくりをしても、行政の細かい施策よりもイメージの方が人には響く。松戸市は交通利便性が高く、住むにはバランスが良く、

ポテンシャルは高いまちのはずである。

- ・湘南でいう海のような、松戸市に大きな核となるものは思いつかないが、暮らしやすさの満足度、イメージアップを、どうやったら形にできるか。

(角畑氏)

- ・着任して、松戸はこんなに便利なところにあるんだ、と感じたが、以前はそのようなイメージを持っていなかった。本来ならもっと脚光を浴びてもよいはずというのが正直な感想。
- ・人口は県内で千葉、船橋に次いで3番目に多い。間違いなく魅力のあるまちのはず。
- ・商圈の問題。松戸の人が松戸で消費せず都内や柏に流れているイメージがある。松戸の住民が松戸で事を済ませて、お金を落とすような流れが出来ればいい。
- ・松戸の「そと」の人が、住むだけでなく、消費のために松戸に来てくれるようなまちづくりが出来たらと思う。
- ・商圈としてうまくいっている所と比べて、松戸駅周辺は人を集めるのには物足りなさを感じる。
- ・ベッドタウンとして良いまちであることは住んでいる人は分かっているが、ほかの人には認識されていないのでは。

(高山氏)

- ・当社の社員のうち、松戸在住は4割で、柏や船橋が1割。新入社員が独身寮から出ると、転居先に柏や船橋を選ぶ人も多いようだ。船橋では東西線沿線が人気で、北習志野界隈は子育てしやすいと。駅前の土地の値段も上がっているようだ。
- ・子育てしている親には、教育環境、どこの小学校に通わせるかも、住まい選びと関係している。
- ・船橋にはららぽーとがあるし、柏も駅前にデパートがある。お祭りでも両市の祭は知名度が高い。
- ・核ということでは、30年以上前から健康都市宣言をしている船橋は「スポーツ都市」としてのブランドが確立されており、公園でのキャッチボールができたり、グラウンドも充実している。
- ・松戸で働いていて、「松戸の名物は何か」と言われても思い浮かばない。お土産に困ることも。

(眞壁氏)

- ・松戸は古き江戸の雰囲気が残っているまちである。これはプラスに評価できる点である。
- ・その一方、新しく開けていった柏などと比べ、商業都市として出遅れた面もあるのではないか。
- ・ベッドタウンだったまちが高齢化に直面している。柏の駅前も勢いがやや落ちてきたような気もする。あらためて松戸市として作戦を立てていくチャンスが来ているのかもしれない。
- ・聖徳大の学生の通学時の導線を見ると、松戸のまちを回遊せず、すぐに電車に乗って

帰る傾向にある。6～7千人近い学生が、松戸駅の西口まで日常的に出歩くようになれば、もっと商店街も活性するだろう。大学の指導が厳しいのか、商店街が学生を相手にしていないのか。発想をかえればチャンスになる。

- ・広域連携の意見があった。文化や歴史の話をしたが、そこに着目すれば東葛地域で共通のものがあるはず。ただ広域と叫んでも、実際どこも動かずに盛り上がらない。松戸は松戸で戸定邸を中心に頑張っていく一方で、広域展開を避けるばかりではなく、もしやるなら一緒にやろうよ、という気構えもあっていい。

次第5 「事務局からの連絡」

(事務局)

- ・時間の関係等で披露できなかった意見など、個別に事務局に寄せていただきたい。
- ・今日いただいた意見に加え、市民や議会からの意見、行政内の調整を踏まえ、10月末の策定を目指して進めている
- ・次回の懇談会は10月上旬を予定。人口ビジョンと総合戦略の最終案を提示したい。

次第6 「閉会」

以 上